次期学習指導要領 教科別まとめ　　中学校 No.02

審議まとめ（2026年10月5日）を**中学校の先生向け**にまとめ直しました

社会

次期学習指導要領で、どう変わる？

覚える社会から、問いと確かな情報で探究する社会へ





10秒でいうと

3分野をつなぐ分野横断の単元A・Bを設け、Cをまとめ単元に位置付け直す。
地域調査は単元Bで

やさしく言うと

中学校の社会は、地理・歴史・公民をつなぐ「分野横断」の単元を設ける方向です。単元A「社会へのまなざし」、B「私たちと社会」、C「よりよい社会を目指して」（いずれも仮称）です。地域調査は、主に単元Bでまとめて行う方向です。日本の諸地域の数を減らすなど、内容をしぼる例も示されています。調べる技能に情報の確かさを確かめる力を加え、AIに頼った成果物が通用しない評価の工夫も求められています。

中学校はいつから？

全面実施	2031年度（令和13年度）から（見込み）
移行期間	2028～2030年度
告示	2026年度末の予定
教科書	2031年度から新しい教科書（2029年度に検定）

この冊子の中身

1 社会のポイント　4つ
2 主な変更点　8項目
3 現行と次期の比較（新旧対照）　3項目
4 授業時数
5 生成AI・ICTとの付き合い方　7項目
6 今からできる準備チェックリスト　7項目
7 次期を先取りする授業アイデア　1本
8 指導案（試案）　1本
9 現行の学習指導要領・解説（中学校）

無料 原田英語.com 次期学習指導要領ナビ

研修・会議・授業・保護者会での印刷・コピー・配布・投影はご自由にどうぞ。ご連絡は不要です。クレジットは残してください。
審議まとめ（2026年10月5日）準拠・出典ページつき。告示前の方向性で、今後変わることがあります。2026年11月4日 版

サイトで見る

社会・地理歴史・公民の3行要約（全校種）

1. 中学校社会に、地理・歴史・公民をつなぐ「分野横断」の単元として、A・Bを新たに設け、現行のまとめに当たるCを位置付け直す案。地域調査などの地域学習は単元B「私たちと社会（仮称）」でまとめて扱う方向。
2. 学ぶ内容は増やさず、重なる事項や教科書の用語をしぼり込む方向。教科書「を」教えるから、教科書「で」教える授業への転換をめざす。
3. ネットやAIの情報が正しいかを確かめる「情報の妥当性の確認」の技能を新たに位置付け、模擬選挙などの主権者教育や外部機関との連携を強める方向。

※中学校の単元A「社会へのまなざし」・B「私たちと社会」・C「よりよい社会を目指して」、地理総合の導入単元「地理と私たち」は仮称。

1 社会のポイント

4つ

1 分野横断の単元A・B・C

Aは、小学校の学びをふまえて中学校社会への動機付けをする単元です。Bは、地理と歴史の学びをふまえて公民へつなぐ単元です。Cは、課題を探究して社会のまとめとする単元に位置付け直します。どれも仮称で、教科書での扱いは今後検討とされています。P151

授業では、たとえば 入学直後に、小学校で学んだ地図や年表を使って「中学校の社会で何を学ぶか」を見通す授業。そんな導入が単元Aの方向に沿う例です。

2 地域調査は単元Bで地理・歴史の両面から

中学校の地域調査は、小学校に比べて実施率が低いとされています。そこで、地域を題材とした学習を単元B「私たちと社会」（仮称）に位置付ける方向です。地理と歴史の両面から扱います。実施時期や方法は柔軟にできる方向です。P153 P160

授業では、たとえば 学校の周りの土地利用と、その土地の昔の様子を両方調べ、地域の課題を考える。そんな地域調査が考えられます。

3 内容をしぼる具体例

地理の「日本の諸地域」は、考察の仕方が重なる2つの地域を関連させ、扱う地域の数を減らす方向です。歴史は、政治・文化・外交・社会を一体的に扱い、時代の特色をつかむよう整理します。公民の情報化の学習は、新しい「情報・技術科」（仮称）と役割を分けるとされています。P153

授業では、たとえば 「産業」の視点で2つの地方を続けて比べ、共通点と違いを考える。そうした組み合わせが、この方向の一例です。

4 AIに頼った成果物が通用しない評価

検索結果のAIの要約をそのまま写す実態が課題とされています。最終的な評価で、自分で考えていない成果物が通用しない工夫が急がれるとしています。例として、口頭試問（口頭での質問）を取り入れることなどがあげられています。 P146 P159

授業では、たとえば レポート提出後に、根拠にした資料と自分の考えを1分で説明してもらう。そんな確認の場面を入れる工夫が考えられます。

2 主な変更点

8項目

1. 中 中学校社会に「分野横断」の単元A・B・Cを位置付ける案

中学校社会科に、地理・歴史・公民の3分野をつなぐ単元を3つ位置付ける案です。A・Bは各分野の既存の内容を統合・整理して新たに設け、Cは現行のまとめの内容を分野横断の単元として位置付け直します。A「社会へのまなざし（仮称）」は小学校から中学校への入り口、B「私たちと社会（仮称）」は地理・歴史から公民への橋渡し、C「よりよい社会を目指して（仮称）」は3年間のまとめとして課題を探究する単元です。これに合わせて、今の各分野の内容の一部または全部がこれらの単元に移される方向です。今の教科書は分野別なので、分野横断の内容の扱い方は今後検討するとされています。 P151

2. 中 中学校の地域調査は単元B「私たちと社会（仮称）」でまとめて行う方向

今は地理的分野と歴史的分野にそれぞれある地域を題材にした学習（地域調査を含む）を、分野横断の単元Bの中で地理・歴史の両面から一体的に扱う案です。地域の課題やその解決を見通した学習課題を立て、地域の人材を積極的に活用します。実施の時期や方法は、学校行事との連携も含めて柔軟にできる方向です。国が指導事例を集めて周知するとされています。 P153 P160

3. 学習内容をしぼり込む（具体例が示された）

全体として学習内容は増やさず、重なっている事項などを整理する方向です。小学校4年「県内の特色ある地域の様子」は、3つの地域を同じように扱うのをやめ、2つを選ぶ方向です。中学校地理「日本の諸地域」は、考察の仕方が重なる2地域を関連させて扱い、地域の数を減らすとしています。中学校歴史は文化・政治・外交・社会を一体的に扱って時代の特色をつかむ形に整理し、高校「日本史探究」は近現代の項目を、より上位の考え方でまとめる方向です。 P153 P154

4. 小 中 他の新しい教科・領域と役割を分ける

新しく設ける案の「情報の領域」（小学校は「総合的な学習の時間」の中に設け、名称を「総合的な探究の時間」に改める案）や「情報・技術科」と役割を分けて、社会科の内容をしぼる方向です。小学校5年「我が国の産業と情報との関わり」は、情報を活用する産業の役割に重点を置きます。中学校公民「私たちと現代社会」の情報化の影響の学習は、それによる社会の変化や課題を考える学習に重点を置きます。 P153

5. 「調べまとめる技能」に情報の正しさを確かめる力を加える

ネットなどで集めた情報の真偽や意図、背景をつかむことがより大切になったため、情報の信ぴょう性を確かめる新しい技能（「情報の妥当性の確認」に関する技能）を位置付ける方向です。目標では、小中学校は「確かな」情報に基づき「適切かつ」効果的に調べまとめる技能、高校は「その妥当性を吟味しながら」調べまとめる技能を身に付ける方向です。図書や新聞を使うことも大事だと注意されています。 P148 P159

6. AIに頼った成果物が通用しない評価を工夫する

AIの要約をそのままコピーする児童生徒への指導が十分でない、という課題が示されました。最終的には児童生徒が自分で考え、自分の言葉で説明し、責任を持つという考え方を当面の基本とします。評価の例として、口頭試問の要素を入れることや、端末のテストモードでブラウザが使えない状態で根拠をもって記述させることが挙げられています。 P146 P159

7. 主権者教育を「深める」「広げる」

主権者教育を学校の年間指導計画に位置付ける方向です。模擬選挙・模擬投票・模擬議会・模擬請願など、子供が主体となって実感をもてる活動を重視し、形だけで終わらず合意形成を図る活動にするとしています。選挙管理委員会や議会事務局、NPO法人などとの連携や、特別活動・総合的な学習（探究）の時間との連携を強める方向です。政治的中立性の確保と、国の通知に沿った指導が重要とされています。 P157 P158

8. 社会の変化をふまえて扱う内容を充実する
国際情勢、自然災害・防災、海洋を含む環境、生成AIの影響、食料安全保障、金融経済、自衛隊、領土、経済安全保障、拉致問題、アイヌに関する理解などの視点で必要な見直しを行う方向です。こども基本法・障害者差別解消法・理解増進法などをふまえた人権の内容や、旧優生保護法やハンセン病の歴史と被害の実態も扱うとしています。研修などで教師の指導力を高めることも必要とされています。P156

3 現行と次期の比較（新旧対照）

3項目

黄色のマーカー＝次期で新しく入る・強く打ち出される言葉　~~取り消し線~~＝現行から消える・言い方が変わる言葉

項目	現行	次期（審議まとめの方向）
中学校社会の構成	地理的分野・歴史的分野・公民的分野の分野別で、教科書も分野別。地域を題材にした学習（地域調査を含む）は地理・歴史それぞれにある。	3分野をつなぐ**分野横断**の単元として、A「**社会へのまなざし（仮称）**」・B「**私たちと社会（仮称）**」を新たに設け、まとめの単元C「**よりよい社会を目指して（仮称）**」を位置付け直す案。地域学習は単元Bで地理・歴史の両面から一体的に扱う方向。P151 P153 P160
教科目標の柱書	「グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者」に必要な資質・能力の育成。	骨格は小中高共通のまま、**地域・国・世界**を含めたよりよい社会の形成をふまえて「グローバル化する国際社会」の記載を見直す。「主体的に生きる」も、多様な他者と「**協働的に**」生きることをふまえて見直す。P144 P148
調べまとめる技能		小中学校は「**確かな**」情報に基づき「**適切かつ**」効果的に調べまとめる技能、高校は「**その妥当性を吟味しながら**」調べまとめる技能。情報の信ぴょう性を確かめる「**情報の妥当性の確認**」に関する技能を新たに位置付ける。P148 P159

4 授業時数

小・中学校の社会の標準授業時数を変えるという記述は、この教科の節にはない。高校は標準単位数が新単位で示され、地理総合4・地理探究6・歴史総合4・日本史探究6・世界史探究6・公共4・倫理4・政治・経済4新単位（現行の2・3単位を新単位に直した値。現行1単位＝新2単位、P81～82）。内容の精選では調整授業時数制度で標準を下回る場合も考慮する（P153）。学年区分は示しつつ学年をこえた前倒し・後ろ倒しを認め、配当時数の目安の示し方は告示文で検討。高校は単位の細分化や増単・減単の仕組みの下で示し方を検討（P161）。

5 生成AI・ICTとの付き合い方

7項目

1. 生成AIやSNSの時代に、情報の真偽を見極める力
生成AIやSNSで大量の情報が簡単に手に入る一方、その真偽や信頼性を判断する力が求められています。資料や情報の真偽・意図・背景をつかみ、信ぴょう性を確かめ、根拠に基づいて自分の考えをつくる力を育てます。P147

2. 新しい技能「情報の妥当性の確認」
「社会的事象等について調べまとめる技能」の中に、集めた・読み取った・まとめた情報の信ぴょう性を確かめる新しい技能として「情報の妥当性の確認」を位置付ける方向です。総合の「情報の領域」などでの学習と関連させます。図書や新聞の活用も大切とされています。P159

3. 社会科のAI活用の基本的な考え方

最終的には子供が自分で考え、判断し、成果物の内容を自分の言葉で説明し、責任を持つという考え方のもとで、課題を追究・解決する学習とその評価方法を改善することが当面の基本とされています。P159

4. AIに頼った成果物が通用しない評価

AI要約をそのままコピーする子供への指導が足りていない実態があり、最後の評価で自分で考えていない成果物が通用しない工夫が急ぎの課題とされています。例として、口頭試問の要素を入れる、端末のアンケートソフトのテストモードでブラウザを使えない状態にして、根拠を示して自分の考えを書かせる、が挙がっています。P146 P159

5. ICTを課題追究の学習の基盤に

社会科の教師の端末活用は「資料を大きく映す」「ネットで自由に調べる」が中心で、道具的な使い方にとどまっています。課題把握（統計資料の検索など）、課題追究（根拠資料・原典資料の収集・分析や共有）、課題解決（レポート作成・発表）の各場面で、学習の質を高める基盤としてICTを位置付け直すとされています。P146 P159

6. 主権者教育：SNSや生成AIが判断に影響

社会参加にあたっては、SNSの影響や生成AIの普及が選択・判断に影響することをふまえる必要があり、情報モラルやメディアリテラシーの重要性がますます高まっているとされています。P145

7. AI時代だからこそ地域を題材にした実感ある学習

AIなどの技術がさらに進む中で、身近な題材を扱い実感を持って学ぶことが重要とされ、中学校の新しい接続単元で地域調査を含む学習を進めます。訪問が難しい場合は、1人1台端末で博物館などのデジタルコンテンツを活用する例も示されています。P160

6 今からできる準備チェックリスト

7項目

- [ ] 今すぐ 調べ学習の手順に「情報の妥当性の確認」（だれが・いつ・何をもとに出した情報か、ほかの資料と合うか）を入れたチェック表を作り、ネットだけでなく図書・新聞・統計も使って確かめる習慣をつけます。P148 P159
- [ ] 今すぐ 単元末の評価に、口頭試問の要素や、端末のテストモードでブラウザを使えない状態で根拠を示して書かせる問題を1つ入れ、AIに頼って自分で考えていない成果物が通用しない評価を試します。P146 P159
- [ ] 今すぐ 地域学習で協力してもらった地域の方・施設や、博物館・資料館のデジタルコンテンツの情報を校内で一覧にし、人事異動があっても引き継げるようにします。P146 P160
- [ ] 告示まで 単元ごとに学習上の課題（問い）を1つ立て、その問いの解決に必要な用語にしぼって教える計画を試し、教科書「を」教える授業から教科書「で」教える授業への切りかえを始めます。P147 P151 P155
- [ ] 告示まで 主権者教育を年間指導計画に位置付け、模擬選挙・模擬議会などの活動を選挙管理委員会や議会事務局と事前に打ち合わせて計画します。政治的中立性に関する国の通知を、連携先とも共有しておきます。P157 P158
- [ ] 先行実施まで 中学校では地理・歴史・公民の担当で話し合い、地域調査を地理と歴史の両面から一体的に扱う単元案（分野横断の単元B「私たちと社会（仮称）」の先取り）を作ります。P151 P153 P160
- [ ] 全面実施まで 「統合的な理解・総合的な発揮」を使った単元づくりに備え、校内研修で1つの単元について「覚えさせたい個別の用語」と「到達させたい概念」を書き分ける練習をします。P148 P150

7 次期を先取りする授業アイデア

1本

中2　1単位時間（50分）

新旧の地図で見つける わたしたちの町の「問い」

地理と歴史の両方の目で町の変化を読み、地域調査で確かめたい問いを生徒がつくります。

手順・ワークシート

ねらい

学校周辺の新旧の地図を比べて土地利用の変化を読み取り、その背景を歴史的に考えたうえで、地域の課題につながる調査の問いを立てることができる。

流れ

- **5分** 新旧の地図を大きく映し、「同じ場所なのに、何がいちばんちがう？」と問います。
- **12分** 班で新旧の地図を比べ、変わったもの（田畑が住宅地に、新しい道路や駅など）と変わらないもの（神社や寺、川筋、古い道など）を色分けした付箋に書いて地図に貼ります。
- **10分** 年表を配り、変化が「いつごろ・なぜ」起きたのかを予想して変化発見シートに書きます。地理の視点（地形・交通・人口）と歴史の視点（時代の出来事・人々の暮らし）の両方から理由を出すよう声をかけます。
- **13分** 班で、今の町の課題につながりそうな変化を1つ選び、「地域調査で確かめたい問い」をつくります（例：「田畑が住宅地に変わって、大雨への備えはどう変わったか」「古い道沿いの商店が減ったのはなぜか、これからどうなるか」）。問いには「だれに聞くか・何を見に行くか」も書き添えます。
- **7分** 各班の問いを黒板に並べ、似ている問いをまとめて、単元を通して追究する学習課題の候補を全体で選びます。
- **3分** 振り返りとして、「地理の目」と「歴史の目」で見たときに見えたものの違いを1文で書きます。

評価

【思考・判断・表現】土地利用の変化を地理的な視点と歴史的な視点の両方から説明し、地域の課題につながる問いを立てているかを、変化発見シートと問いで見取ります。【主体的に学習に取り組む態度】調査の方法（だれに聞くか、何を見るか）まで見通して問いを立てようとしているかを見ます。問いの質は、次時以降の調査を通して継続して見取ります。

© 原田英語.com 次期学習指導要領ナビ（https://www.haradaeigo.com/jikigakushushido/）｜社会（中学校）教科別まとめ｜研修・校内での印刷・配布OK（連絡不要）

8 指導案（試案）

1本

中学校第1学年　社会（歴史的分野）　全6時間（本時は第3時）

身近な地域の歴史 ～地図と資料を見比べて、わたしたちの町の昔の姿を確かめよう～

中教審の審議まとめ（2026年10月5日）で示された、中学校社会科に分野横断の単元を設け、地理的分野・歴史的分野の地域を題材とした学習活動（地域調査を含む）を地理・歴史の両面から一体的に扱うという方向性と、「社会的事象等について調べまとめる技能」に「情報の妥当性の確認」に関する技能を位置付けるという…

指導案の全文

本時のねらい

町について語られている話が確かかどうかを、複数の資料の出典や作成目的を確かめながら比べ、どこまで確かめられるかを根拠をもって判断し、説明することができる。

本時の流れ

- 5分　導入　前時に作った地図（古い道沿いに寺社や石碑が集まっている）を振り返る。地域で語られている話「この町は江戸時代、宿場町としてにぎわった」を示し、本時の問いを確かめる。
- 15分　展開　4人グループで資料A～Dを分担し、「情報の確かめチェック表」を使って読む。A：明治時代の地形図（旧版地図）の写し、B：市町村史の該当部分の抜粋、C：古い道沿いにある説明板の写真、D：観光を紹介する記事（教師が作った架空の記事。根拠を示さずに「1日に千人の旅人が泊まった」などと書いてある）。
- 15分　展開　グループ内で読み取ったことを持ち寄り、話を「宿場があった」「にぎわった」「1日に千人が泊まった」などの部分に分ける。それぞれについて「確かめられた／一部確かめられた／確かめられない」を判断し、根拠とする資料を書く。
- 10分　展開　各グループの判断を全体で共有し、判断が分かれた部分について理由を出し合う。確かめられない部分を、次時に郷土資料館の学芸員や地域の方にたずねる質問にまとめる。
- 5分　まとめ　振り返りシートに、資料を確かめるときに大切だと思ったことと、町の歴史について新たにもった問いを書く。

PDF版：shidoan-chu1-shakai-chiiki-rekishi.pdf（ダウンロードコーナー）

9 現行の学習指導要領・解説（中学校）

PDF **中学校学習指導要領（平成29年告示）（本文）**
https://www.mext.go.jp/content/20230120-mxt_kyoiku02-100002604_02.pdf

PDF **中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編**
https://www.mext.go.jp/content/20240919-mxt_kyoiku01-100002608.pdf

文部科学省の公式PDFです（クリックで開けます）。

ご利用について

- **研修・会議・授業・保護者会での印刷・コピー・配布・投影はご自由にどうぞ。ご連絡は不要です。**
  （校内研修・教育委員会の研修・教員養成の授業・学年会・PTAなど）
- クレジット「原田英語.com 次期学習指導要領ナビ」
  （https://www.haradaeigo.com/jikigakushushido/）はそのまま残してください。
  各ページの下に入っています。
- 中身は中央教育審議会 教育課程部会「次期学習指導要領等に向けた審議まとめ」（2026年10月5日）ほか文部科学省の資料をもとに、原田英語.comが要約したものです。**告示前の方向性**で、答申・告示で変わることがあります。（仮称）の名前も今後変わる可能性があります。
- 文中の P〇 は審議まとめ本体（PDF）のページ、**資料編（1）～（3）P〇** は第3部 資料編（PDF）のページです（PDFのページ番号。印刷されたページ番号とは1つずれることがあります）。PDFで見ているときはクリックで原文が開きます。
- 授業アイデア・指導案は、審議まとめの方向性をふまえた原田英語.comのオリジナルの試案です。
- 最新の情報・ほかのPDFはサイトで：
  https://www.haradaeigo.com/jikigakushushido/download/（2026年11月4日 版）

サイトで最新版を見る